

都市再生整備計画 フォローアップ報告書

く さ な ぎ え き し ゆ う へ ん ち く
草薙駅周辺地区

平成27年3月

し ず お か し ず お か
静岡県静岡市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
指標1 駅周辺の町の魅力度 ①草薙駅周辺 ②御門台	%	①16.2 ②7.1	①28.3 ②14.3	①42.8 ②49.4	確定		あり	① 20.8 ② 25.7	H26年11月	① × ② ○	事後評価時点では、整備後の期待度を評価値として扱っていること、草薙駅周辺においては、予定していた事業の除外があったこと、これらにより想定した値に及ばなかった。	<input checked="" type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	草薙駅周辺については、多くの事業が推進中であることから、目標には及ばなかったが、満足度の向上が見られた。御門台駅周辺については、現在も一部事業が推進中であるが、整備推進による満足度の向上に寄与した。今後、事業の進捗及び完了による満足度の向上が期待できる。
					見込み	●	なし						
指標2 地域交流センターの利用者数	人/年	43,031	45,079	77,000	確定		あり	46,785人	H26年7月	○	事後評価においては、類似施設によるトレンドから評価値を設定したが、地区状況の違いや、施設の実施事業回数の減少等の要因もあり、想定した利用者数には及ばなかった。	<input checked="" type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	老朽化していた既存施設の建て替えにおいては、部屋構成の改善、バリアフリー化、児童館の併設、アンケートによる住民意見の収集・反映等を行い、多様な住民ニーズへの対応をしたことにより、施設の利用者数が増加した。
					見込み	●	なし						
指標3 ワークショップ等への住民参加人数	人	5カ年 推定累計 265	5カ年累計 600	782	確定		あり	733人	H26年7月	○	事後評価時点での予定より、ワークショップ開催回数が減った。	<input checked="" type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	事後評価時の見込み程の数値は得られなかったものの、従前と比べ、事業に係る説明会やワークショップ・意見交換会を積極的に実施し、ワークショップ等への住民参加人数が増加しており、魅力ある交流やイベント等の活性化に寄与した。
					見込み	●	なし						

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1					確定				H 年 月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる		
その他の数値指標2					確定				H 年 月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる		
その他の数値指標3					確定				H 年 月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる		

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4-③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5-③に記載した今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
<p>・成果を持続させるために 行う方策</p>	◆交流施設の有効利用	<ul style="list-style-type: none"> ・有度生涯学習交流館の運営においては、指定管理者制度を活用し、主催事業の充実、施設(交流館、駐車場、駐輪場)の管理などを推進。 ・管理運営に関しては、利用者の意見や要望を反映させる等利用者本位の運営。 ・交流館だより「うど」の発行(毎月1回)、館報による広報活動や玄関ロビーへの各種チラシの配架、ポスターの掲示。 ・平成25年度29講座100回を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・有度生涯学習交流館の運営においては、指定管理者制度の導入により、一体的・効率的な施設運営が推進され、主催事業やイベント等のプログラムの充実が図られた。 ・児童館の運営においては、他児童館との連携によるノウハウの伝達、情報交換等により運営が充実された。 ・住民への分かりやすい情報提供が推進された。 	
	◆南北地区住民の交流促進	<ul style="list-style-type: none"> ・草薺まちづくりワークショップ、まち歩き等の開催。(平成23年度ワークショップ6回、まちあるき1回)(草薺くんと花さかせ隊⇒美化活動、草薺文化 再発見・発信・創造⇒各種マップづくり)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・駅をまたがって南北の地区の住民が参加するイベントやワークショップの開催により、参加者間の交流が促進され、住民等の主体性が強化された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2期計画(H27～31)策定過程でのワークショップの開催により、過年度の取り組みを継続・強化していくとともに、その後も継続的に成果を持続させていく。
	◆地元自治会や各種団体・大学等による、まちづくりに関わる検討や活動の継続	<ul style="list-style-type: none"> ・「草薺くんと花さかせ隊(緑化活動)」による地区の植栽の定期的な維持管理。(その後草薺の輪プロジェクトとして発展。現在も継続的に活動。) ・「草薺文化 再発見・発信・創造(情報発信)」によるマップの作成発行(全5種類) ・地域交流イベント「つながるくさなぎ夏フェス&草薺マルシェ」の開催、アンケートの実施(平成26年7月27日) ・草薺駅周辺の整備についての住民説明会の開催や市政ふれあい講座において、連合自治会や各種団体等との継続的な意見交換を実施。(～平23年度末:講座・説明会・ワークショップ…累計開催回数 32回) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップのシンボルアイデアから実行へ移行したことで、住民の主体性や各団体等を巻き込んだ継続的な活動が生まれた。 ・地域住民のまちづくりへの関心の向上、まちづくりへの情報交換・意見交換が実施できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・H25年度から産官学民の取り組みが始まっており、活発な議論が実施されていることから、2期計画(H27～31)期間での取り組みを含め、継続的に成果を持続させていく。
<p>改善策</p> <p>・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策</p>	◆南北方向の交通・歩行者の連絡性の抜本的な改善 ◆JR草薺駅の南北連絡性の確保、北口開設による交通結節機能の拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・一里山長崎線の継続整備。平成26年度は用地買収4件および道路築造工事を実施。(平成29年度供用開始予定) ・JR草薺駅南北自由通路整備開始。(平成28年度供用開始予定) ・草薺駅北口および草薺駅北口通り線等の整備開始(平成28年度供用開始予定) 	<ul style="list-style-type: none"> ・一里山長崎線については、歩行者連絡性の改善に向け、平成29年度の供用開始に向けた事業が推進された。 ・JR草薺駅南北自由通路及び、草薺駅北口通り線については、交通結節機能の拡充、南北の自由な往来とバリアフリー化の実現に向け、平成28年度の供用開始に向けた事業が推進された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2期計画(H27～31)および社会資本総合整備計画(静岡市のまちづくり等)により、改善に向けた事業を推進する。
	◆南北地区それぞれにふさわしい駅前の顔づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・一里山長崎線の継続整備。 ・JR草薺駅前の整備の推進(草薺駅南口地区第一種市街地再開発事業(平成28年度利用開始予定)、北口駅前広場(平成30年度供用開始予定)、南口駅前広場(平成30年度供用開始予定)) 	<ul style="list-style-type: none"> ・一里山長崎線については、歩行者連絡性の改善に向け、平成29年度の供用開始に向けた事業が推進された。 ・北口駅前広場及び、南口駅前広場については、にぎわいのある駅前の顔づくりの実現に向け、平成30年度の供用開始に向けた事業が推進された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2期計画(H27～31)および社会資本総合整備計画(静岡市のまちづくり等)により、改善に向けた事業を推進する。
	◆後背丘陵地の文教施設、自然・レクリエーション環境、歴史自然などの地域資源を活用したまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・静岡銀行、草薺駅南口地区第一種市街地再開発組合等と、景観等における協議・調整を行いながら実施。 ・JR草薺駅前の整備の推進(草薺駅南口地区第一種市街地再開発事業(平成28年度利用開始予定)、北口駅前広場(平成30年度供用開始予定)、南口駅前広場(平成30年度供用開始予定)) ・JR草薺駅南北自由通路整備開始。(平成28年度供用開始予定) ・草薺駅北口および草薺駅北口通り線等の整備開始(平成28年度供用開始予定) ・「草薺くんと花さかせ隊(緑化活動)」による地区の植栽の定期的な維持管理。(その後草薺の輪プロジェクトとして発展。現在も継続的に活動。) ・「草薺文化 再発見・発信・創造(情報発信)」によるマップの作成発行(全5種類) 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通結節機能の拡充、南北の自由な往来とバリアフリー化の実現等に向け、供用開始に向けた事業が推進された。 ・整備にあたっては、各事業者との連携が図りながら進められている。 ・「草薺」の地域ブランド化に向けた活動がスタートした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・H25年度からの産官学民の取り組みにより、地区のまちづくりを継続的に推進する活動母体が生まれつつあり、2期計画(H27～31)での取り組みと合せて、必要な改善への取り組みを推進する。

	◆企業等との協力体制構築の推進	<ul style="list-style-type: none"> 指定管理者制度を活用し、民間のノウハウを活用した主催事業の充実、施設(交流館、駐車場、駐輪場)の管理などを推進。 草薙まちづくりワークショップ、まち歩き等の開催。(平成23年度ワークショップ6回、まちあるき1回) 	<ul style="list-style-type: none"> 有度生涯学習交流館の運用について、民間のノウハウを活用した管理運営などの効率化が推進された。 住民が参加するワークショップやまちあるき等の開催により、参加者間の交流が促進され、住民や企業間の協力体制が強化された。 	<ul style="list-style-type: none"> H25年度からの産官学民の取り組みにより、地区のまちづくりを継続的に推進する活動母体が生まれつつあり、2期計画(H27～31)での取り組みと合せて、必要な改善への取り組みを推進する。
--	-----------------	---	---	---

事後評価シート 添付様式5-③から転記

様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項

都市再生整備計画(第4回変更)

草薙駅周辺地区

静岡県 静岡市

平成23年3月

・様式は、A4長辺側を、2箇所ホチキス留めすること。

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	静岡県	市町村名	しずおかし 静岡市	地区名	草薙駅周辺地区	面積	168 ha
計画期間	平成	19	年度	～	平成	23	年度
				交付期間	平成	19	年度
					～	平成	23
							年度

目標

大目標：地域と大学等との連携やJR草薙駅と幹線道路による南北連絡強化と駅前の顔づくりによる、質の高い文教環境を活かした地域交流のまちづくり

目標1：鉄道による市街地の分断を解消・緩和し、南北地区間の自由で安全な往來の実現の推進

目標2：大学、芸術、自然環境、住環境等の優れた地域資源を活かした魅力ある駅周辺整備の推進

目標3：地域の様々な市民団体・組織間の連携の強化と大学生の若い力を活かした交流やイベント等の活性化

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

・草薙地区は、旧清水市・静岡市の市境部分に位置し、JR線と静岡鉄道の2線が利用できる交通至便な市街地である。JR新幹線・在来線以南(南地区)は静清地区土地区画整理事業(県施工、昭40～平5、132.1ha)によって計画的な基盤整備がなされるとともに、後背丘陵地の豊かな自然環境等も背景として、市内有数の優良な住宅地と、静岡県立大学、県立美術館・図書館の立地による文教地区が形成されてきた。歴史資源として日本武尊をまつる草薙神社もある。また、草薙駅前地区、南幹線地区の地区計画により、駅前の商業空間、質の高い住環境の形成と維持がなされている。駅周辺は個店中心の近隣商業地でありながら空き店舗がほとんどないという状況にあるが、大学等のある「学園街」の駅前としての特性や魅力はまだ不十分という面もある。

・一方、JR新幹線・在来線以北(北地区)は、企業や製造・流通業等が立地する産業ゾーン(住工混在地域)となっており、南地区とは好対照の市街地及び都市機能の受け皿となっている。ただし、北地区には商業集積や、JR草薙駅の北口がないため、住民生活という面では南地区との格差が大きく、また南地区の商業集積や駅南口との往來のためには、迂回路や踏切道のボトルネックを経由せざるを得ないなど、不便な生活環境を余儀なくされてきた。JR草薙駅北側には、まとまった企業用地があり、当該企業の協力により、計画的な基盤整備やまちづくりを行い得る可能性は高い。

・以上から、南北住民間の交流は少なく、都市機能面でも相互に連携・分担するという関係は薄かった。また、コミュニティの核である公民館の老朽化といった問題もある。

課題

・鉄道による南北分断、生活利便性の南北格差を解消するため、南北方向の交通・歩行者連絡性を抜本的に改善する必要がある。

・特に、JR草薙駅において、南北連絡性の確保、北口開設、交通結節機能の拡充は大きな課題となっている。これらの整備・改善にあわせて、南北地区それぞれにふさわしい駅前の顔づくりを行うことも課題である。

・さらに、南北間の連絡性確保や往來の促進に終わるのではなく、南北地区の住民交流や、両方の住民が相互に使いあうような交流施設等の整備と有効利用が必要である。

・このようなまちづくりに際しては、後背丘陵地の文教施設、自然・レクリエーション環境、歴史資源などの地域資源を効果的に活用するとともに、地元大学と連携を図りつつ、大学と地域住民、さらには企業・鉄道事業者等が参加した体制によってまちづくりに係る検討や活動を推進することが必要である。

将来ビジョン(中長期)

既存の文教施設等を活かした、高度な文化・レクリエーション機能を維持していくとともに、地区周辺の住宅及び商業と一体となった拠点形成を図る(静岡市都市計画マスタープランより)。

・静岡市都市計画マスタープランでは、清水区の骨格を形成する拠点(地域拠点)として草薙駅周辺地区が位置づけられている。

・同マスタープランの清水区の都市交通の方針(主要な交通結節点の方針)では、駅前広場等の未整備により、駅利用交通のほとんどが南口に集中するといった問題を抱えているJR草薙駅北口においては、駅前広場の整備や歩行者空間のバリアフリー化を推進し、駅利用交通の分散化と交通の円滑化を図り、交通結節点の機能強化を図るとされている。

・静岡市景観形成ガイドプランでは、JR草薙駅・県立美術館周辺地区は、自然・歴史・文化などが一体となった草薙の魅力を引き出す景観づくりを目標に、①草薙神社等を活かした歴史性を高める景観づくり、②文教地区の玄関口にふさわしい草薙駅前及び南幹線沿道の景観形成、有度丘陵の緑と調和した住宅地景観の形成、④文教地区としての魅力を向上させる景観づくり、を景観形成のテーマ・方針としている。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
1. 駅周辺のまちの魅力度	%	市民アンケートによる①「草薙駅の駅前周辺に魅力がある」、②「御門台駅の駅前周辺に魅力がある」という回答割合(5段階のうち上位2段階を回答した割合)	JR草薙駅及び静鉄御門台駅を中心として各事業の効果を確認するため、駅前の魅力について市民へ確認する	① 16.2 ② 7.1	平成18年 平成21年	① 28.3 ② 14.3	平成23年 平成23年
2. 地域交流センターの利用者数	人/年	有度地域交流センターの年間利用者数	南北市民の交流促進の指標として撤去新設を予定する有度地域交流センターの利用者数を把握する	43,031	平成17年	45,079	平成23年
3. ワークショップ等への住民参加人数	人	ワークショップ・地元説明会・市政ふれあい講座等への地元住民の参加人数について、これまでの実績から推定される5か年推定累計と最終累計との比較	事業に対する住民参加の意識向上や魅力あるまちづくりに向けた住民との協力体制の構築を目指し、地元住民の各事業への参加人数を把握する。	5か年推定累計 265	平成21年	5か年累計 600	平成23年

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1: 南北地区の連絡機能の充実と公共交通の利便性向上のための基盤・環境整備の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄道による市街地の分断を解消・緩和し、南北地区の住民の自由でバリアフリーな往来を実現するため、JR草薙駅橋上駅舎化及び南北自由通路並びに駅周辺の整備による交通結節機能の強化と幹線道路整備事業の推進を図る。 ・南北交通のボトルネックとなっている踏切道の整備や改良を行い、公共交通の利便性向上を目指す。 	<p>(都)一里山長崎線整備(基幹事業/道路)、一里山長崎線詳細設計(提案事業/事業活用調査)、一里山長崎線周辺道路整備検討調査(提案事業/事業活用調査)、JR草薙駅周辺交通結節機能検討調査(提案事業/事業活用調査)</p>
<p>整備方針2: 安全で快適な歩行空間整備と地域のシンボルとなる駅前の顔づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・静岡県立大学、県立美術館・図書館等の丘陵部文教ゾーン～豊かな環境の住宅地ゾーン～駅前のにぎわいゾーンを通じて、美しく快適で、バリアフリーかつ安全・安心な、歩く人々のためのまちづくりを進める。 ・JR草薙駅及び静鉄御門台駅周辺において、文教地区・優良住宅地、産業ゾーンにふさわしい品格とにぎわいのある駅前の顔づくりの推進を図る。 	<p>(都)一里山長崎線整備(基幹事業/道路)、有度地域交流センター整備事業(基幹事業/高次都市施設)、市民サービスコーナー整備事業(提案事業/地域創造支援事業)、児童館整備事業(提案事業/地域創造支援事業)、一里山長崎線詳細設計(提案事業/事業活用調査)、一里山長崎線周辺道路整備検討調査(提案事業/事業活用調査)、JR草薙駅周辺交通結節機能検討調査(提案事業/事業活用調査)、住民交流のまちづくり活動支援(提案事業/まちづくり活動支援事業)、バリアフリー基本構想重点整備地区におけるバリアフリー改良事業(関連事業)、</p>
<p>整備方針3: 地域の様々な市民団体・組織間の連携の強化と大学生の若い力を活かした交流やイベントの活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老朽化している清水有度公民館を、その前面の市道一里山長崎線の整備にあわせて改築し、南北地区住民のための交流拠点、身近な行政サービス拠点として機能拡充を図る。 ・災害時に地域の拠点となる避難場所の確保と整備を図る。 	<p>旧清水有度公民館解体(提案事業、地域創造支援事業)、有度地域交流センター整備事業(基幹事業/高次都市施設)、市民サービスコーナー整備事業(提案事業/地域創造支援事業)、児童館整備事業(提案事業/地域創造支援事業)、住民交流のまちづくり活動支援(提案事業/まちづくり活動支援事業)</p>
<p>その他</p> <p>○住民、大学、企業・鉄道事業者等の参加によるまちづくり部会(予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の分野にわたるまちづくりを住民や大学・学生、関連企業の参加によって進めるため、まちづくり部会の創設を検討する。 ・具体的には、「安全・安心まちづくり部会」(地区全体の安全・安心について検討)、「駅前の顔づくり部会」(JR草薙駅南北駅前の顔づくりについて検討)、「住民交流のまちづくり部会」(地域交流センター改築などについて検討)の3つを予定する。 	

